

令和7年度 第2回学校運営協議会記録

1 日時

令和7年11月27日（火） 13:30～15:00

2 場所

本校会議室

3 参加者

（1）学校運営協議会委員 8名

A 委員（学識経験者）

B 委員（教育関係有識者）

C 委員（福祉関係者）

D 委員（PTA 関係者）

E 委員（企業関係者）

F 委員（地域関係者）

G 委員（福祉関係者）

H 委員（行政関係者）→御欠席

I 委員（本校職員）

（2）本校職員 9名（委員の校長も含）

校長 副校長（小・中・高）、事務長、総括教務主任、学部主事（小・中・高）

4 内容

（1）開会のことば

（2）校長あいさつ

皆様こんにちは。本日は、御多用の中、第2回学校運営協議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。来週になりますと暦は12月を迎え、子どもたちの学校生活も冬休みという一つの区切りが見えてくる時期となつてまいります。

今日は高等部が関西方面（京都、大阪方面）へ2泊3日の日程で修学旅行に旅立ちました。11月28日の金曜日に帰ってくる予定です。修学旅行が終わりますと、学校の年間の大きな行事が一区切りを迎えたなという実感が出てまいります。

過日は、全校で取り組む行事「ひがしの日」が開催されました。今年も400名を越える多数の方々がおいでいただいて、大盛況のもとで終えること

ができました。学校運営協議会の皆様方も、お時間を作っていただいて御来場いただきましたこと、本当にありがとうございます。この場を借りまして御礼申し上げます。これまで整理しながら取り組んでまいりました地域連携については、今年度の「ひがしの日」を一つのゴールということで設定して、花咲く丘プロジェクト2025と銘を打って、具体的な教育活動に取り組んでまいりました。まだまだ改善していかなければならない部分もあると感じておりますが、本校の教育活動の大きな柱になる取り組みとして、今年度はスタートできたのではないかと感じておりますし、「ひがしの日」という大きな学校行事に絡めながら活動を進めることで、昨年度よりもまた一歩前進した学校行事の様子を皆様方にお届けできたのではないかなということを、肌で感じているところでございます。

本日は、このプロジェクトを振り返りながら、本校の地域連携について御意見等をお伺いしたいと思いますし、それ以外でも、各学部の前期の学習活動の報告であるとか、学校評価アンケートの実施、いじめに対する取り組みなど、多岐にわたる内容も入っておりますので、こちら、委員の皆様から御意見等いただきたいと思います。時間が限られてるところではございますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(3) 協議

なし

(4) 報告

ア 令和7年度地域連携「花咲く丘プロジェクト2025」について
資料のとおり

イ 前期の活動報告について（各学部から）

スライドの写真をしながら口頭説明（配付資料なし）

【小学部】

小学部では、身近な地域、学校周辺の地域ということで、学年、学級単位で散歩や公園遊び、ファミリーマート等での買い物に取り組みました。特に5年生は、生活単元学習で地域を歩いて実際に見てきたことを「地域マップ」と「説明書」としてまとめる学習をしました。具体的な活動としては、春と秋にりんごの畑にお邪魔させていただき、りんごの成長を実際に目で見て、子どもたちが写真を撮りました。花から実になること、品種によって色が違うことなど、子どもたちは気付いたようでした。次の写真は、かどしげ農園でりんご飴を買って食べる場所ですが、その時に子どもたちが店内を見まわして、「袋のりんごだ」、「生

のりんごが袋に詰めて売っているよ」と自ら気付き、声を上げていたとの報告を受けました。加工されたものが販売され、りんご飴として食べるなど、実際に食べてみるところからも、学びにつながっていきました。

学校に戻ってきてからは、グループ活動としてと、5年生全体を3つのグループに分けました。説明文を作るグループ、イラストを描くグループ、写真を貼るグループに分かれて活動を行い、マップと説明書を作り、完成したものは「ひがしの日」の展示コーナーに飾ることができました。

次の写真です。盛岡圏域、広域な地域としての活動は、例年行っている校外学習です。県立美術館や子ども科学館、小岩井農場まきば園に行きました。写真は、1年生17名が御所湖広域公園町場地区園地で、学校にはない大きな遊具を使って思う存分元気に活動してきたところです。17人というとても人数が多い学年となり、初めての校外学習で、広いところに行って大丈夫かなという心配なところもありましたが、怪我することもなく、楽しく遊んで帰ってくることができました。

最後です。社会的な地域、盛岡圏域他ということで、広域なところとしては、3年生が花巻のおもちゃ美術館を校外学習で利用したほか、昨年度と同様ですが、5年生は宿泊学習の日中活動として一戸のこどもの森へ行きました。6年生は修学旅行で仙台方面に行きまして、うみの杜水族館での1枚というのがこちらの写真です。

【中学部】

中学部は、身近な地域、学校周辺の地域ということで、最初の写真は、作業学習の中で作った製品を委託販売している花山野とmi-cafeに納品に行った時のところです。実際にお店に製品を持っていき、値札を付けたり、陳列したりする活動をしてきました。たくさんの方に製品を手にとっていただいていることがわかり、お客様に喜んでいただいている様子もわかり、直に喜びを実感することができました。

次の写真です。学校周辺地域という部分です。中学部2年生の活動です。新山地区の自治会長さんに学校に来ていただき、新山地区について色々とインタビューを行いました。その中で、地域の活動として神社に御神酒をあげたり、元朝参りをしたりしていると伺い、実際にその神社まで足を運んできました。その時の写真です。地域の活動を実感する良い機会になったなと思っています。

次は盛岡圏域ということで、この写真は、中学部1年生のショッピングセンターでの買い物学習です。決められた金額の中で、購入する商品を自分で選び、買い物の手順に沿って支払いをするということです。実際にレジを操作して買い物をするという体験をしてきました。この写真は1回目の校外学習ですが、2回目では、券売機で切符を購入することや、自動改札を利用することを学習し、

生活に密着したところでの立ち居振る舞いや、公共の場での過ごし方などについて学ぶことができました。

次です。もう一つ、盛岡圏域の写真です。校外体育として、ふれあいランド岩手の陸上競技場に行き、50メートル走、100メートル走、ハンドボール投げを行いました。専門的な屋外の体育施設を利用し、日頃取り組んでいるランニングの成果であったり、体力作りの成果であったりを発揮することができました。学校内ではなかなかできない、思いっきり体を動かすという体験ができました。

最後は盛岡圏域外というところで、3年生の修学旅行です。東京方面に行ってきました。中学部での学習の集大成という形で、公共施設の利用の方法や、マナーを守った行動の仕方を実践する機会になったと思います。また、東京の文化や生活の様子などについて実際に見て触れることができ、社会的な視野を広げることができました。

【高等部】

身近な地域、学校周辺地域についてです。この写真は、1年生の後期の校内実習において新山公民館の清掃にお伺いして綺麗にしている様子です。この後はゲートボール場に上がって除草作業をしました。その日の午前中を全部使って清掃作業をしてきました。地域に貢献するという位置付けの、とてもよい活動だなと思います。自治会長さんから「ありがとうございました」と言ってもらくと、生徒も達成感があり、よい活動の場になってきたなと思います。

次の写真です。学校周辺の外部での販売活動の1つで、今年の7月、都南工業団地夏祭りというところにお邪魔した外部販売の様子です。都南工業団地にある北日本建機さんから御招待いただいたものです。去年は職員だけで行って販売しましたが、今年は生徒も参加しました。てしろもりの丘さんの生徒に「行きませんか」と誘ったら、当日の送迎もしていただき、とてもよい販売機会になりました。作っている物の説明をし、消費者さんに手渡すことができ、さらに交流もできて、とてもよい機会になりました。同じ手代森地区に住む人たちからの誘いということもあって、新しい外部販売のきっかけになったと思います。

次はきたぎんボールパークで販売している写真です。高校生マルシェということで、高野連から声を掛けていただきました。高校野球の地区予選の期間に、各支援学校の高等部の作業製品販売と農業高校などの生産物の販売を一緒に行ってみてはいかがでしょうかと案内をいただいたものです。去年は視察で終わったのですが、今年は参加しました。野球関係の方たちにお買い求めいただきました。同じ販売エリアに他校の高等部の生徒たちもいたので、よい刺激になって、「こんなふうに販売してる」とか、「こんな商品もあるんだ」など、お互い交流の場になりました。

次は盛岡圏域の写真です。盛岡第一高校の合唱部さんとの交流の様子です。

お互いに歌の練習をするなど事前の準備を経て当日を迎えました。一高さんが本校の校歌の練習をしてきてくださり、披露してくれました。歌は様々なバリアを取り払ってくれるとものだと感じ、本当に感動的な時間を過ごしました。お互いにとてもよい雰囲気交流会を終えることができました。

最後に盛岡圏域を出てということで、北上市の総合運動公園陸上競技場で行われた Try スポーツの様子の写真です。県内の知的障がいの特別支援学校（高等部）が集まって競う競技大会です。夏休み明けから練習をはじめ、本番に臨みました。走るだけではなく、ソフトボール投げをしたり、フライングディスクを遠くに飛ばしたり、重複障がい学級の生徒は屋内でフロアボーリングをしたりという内容です。他校とも競いあって、よい場を経験して帰ってきました。

<質疑・応答>

E 委員：今回もしっかりと計画を立てていて、非常によい活動だなと思います。先日、色々なB型の事業所の方と話をすることがありまして、例えば「自分たちが作ったものをどうやって売るか」が話題になりました。うちの場合には、自分の会社で売ればよいわけですが、よその方だったらなかなかそれが難しいところもありますので。今計画してるのが、あるショッピングセンターの中に障がい者の方が作った作品や商品を置くコーナーを作って売ってもらえるようにしたいというもので、現在交渉中です。そんな中、子どもたちが、先ほどの報告のように、色々なことを話しながら、説明しながら、販売するという活動は非常によいなと思っておりました。

A 委員：きたぎんボールパークで子どもたちが実際に売ってる場面の写真がありましたが、生徒たちからはどんな感想が出ていましたか。

高等部主事：商品について質問された時に答えることができる、本当によい場面です。「売れてよかった」などの感想はありました。他には「同じ高校生の野球を見たいな」という感想もありました。販売して、実際にお客様と対面するというのは、すごく充実感があるというような話を生徒はしています。接客は、やればやるほど出来るようになりますし、自分たちで気が付いてできるようになる部分があります。例えば、陶芸の商品を売るときに、どのようにすればいいのか。誰かが包み始めると、自分も包み始めるとか、割らないようにしっかり重ねるとか、渡し方も気を付けるとか、やってみないと分からないというのがあります。振り返ってみると、どんどん様々なことが身についていくのを感じています。

A 委員：今、振り返りというお話がありましたが、実際の活動場面で、自分は

「これはできた」「できなかった」とか、子ども自身がその中で自分の課題に付き、「次は、学校でこれを頑張ろう」と色々試して、また実際の場面でそれを使ってどうだったとか、このような活動が大事かなと思うのです。

今、色々な感想があったということでしたが、学校での学習と結びつくような、何か生徒自身の振り返りのようなことはありましたか。販売になると、お金の受け渡しがあったり、今おっしゃったように包装したりするなど、色々な活動が出てくるので、学校での活動や学習とどういうふうに繋がってくるのかなと。

高等部主事：金銭の取り扱いを実際にしてみるというところは、流通という部分の学習になっています。授業では国数を学びますが、それが実生活にしっかり結びついていくのだよという部分に、このような体験が繋がっていきます。他には進路についての学びです。いずれは就業してお金を得たいとなった時に、マルシェに参加した経験が生かされると思います。接客が苦手だと言っていた生徒でも、このような機会に実際に外でやることで、自分の進路選択が広がる場合もありますし、やってみて本当に苦手だったら、店舗の裏方と言いますか、バックヤードでの品出しの方を選択するなど、得手不得手を知るという部分で、自分自身の振り返りになるのかなと思っていました。

A 委員：中学部の方でも、実際に商品を納品するなどの活動があったかと思いますが、中学部の生徒からはどんな感想がありましたか。

中学部主事：普段の活動では、花山野と mi-cafe に、作業製品の納品をしています。校内実習の中で生徒が実際に行って納品するという場面を設定しておりました。普段は職員が納品をしにいくのですが、実習の期間中は納品作業に生徒も行きますので、お店の方から「製品売れてますよ」と言ってもらえて喜びを感じていました。また、いつも納品してる製品の 하나가とてもよく売れたそうで、お店の方から「買っていただく方が多い」とか、(納品に来た生徒を)「アイドルが来た」というような言い方で迎えてもらうなど、お店の方にも喜んでいただき、たくさんの方に買っていただいていることを実際に見て体験し、とても喜んでいるところでした。

A 委員：普段の先生とのやり取りだけではなく、自分たちが普段やってることが、社会の中でどういうふうに、何とどう繋がってるのかとか、どう評価されるのかを自分の経験を通して知ることは、子どもたちにとってはものすごく大事なことです。

ウ 令和7年度学校評価アンケート実施計画について

資料のとおり

<質疑・応答>

A 委員：少し前から学校評価アンケートに関しては（様々な場で）お話をさせていただいているところです。ここの学校だけの話ではないのですが、ある程度質問事項が決まっていて、県への報告もあるのでしょうか、それぞれの学校単体でアンケートの仕方を変えるのは難しいと思われますが。とはいえ、今やられている学校評価というのは、印象評価なので、それぞれ保護者の方がどう感じているとか、あるいは個々の先生方がどう感じているかということになるので、評価基準が明確ではないということになります。例えば教職員向けの調査項目が15項目あって、5番目の「私たちは児童生徒の生活や学習の場面を通して将来の自立や社会参加につながる力を育てることを意識していますか」という設問に4段階で評価するということなのですが、「大いにそう思う」「そう思う」というのは、具体的に何を想定して「そう思う」のか、「大いにそう思う」のか、その想定の違いで、回答が変わってしまうわけです。ある先生は同じような形でやっても、大いにそう思っておられる方もいれば、いや、やっぱりちょっとなんかまだできていないなっていうことで「そう思う」と答えるとか、「あまり思わない」をつけるとかいうことです。なかなかそのあたりが難しいので、当然この調査はこれでやっていただくのですが、それ以外のところで、例えば何か評価できるようなデータが学校の中に色々あると思うのです。例えば、進路指導に関することであれば、さっき保護者への質問では少し去年と文言を変更したということもあったのですが、例えば高等部であれば、普段の学習の中で子どもたちの将来に関わるような取り組みが、具体的にはどういう単元でどういうことを学習したのか、指導計画などから拾ってこられると思いますし、あるいは「安全」に関わることであれば、保健室の来室状況です。月にどれぐらいの子どもが保健室を使ったのかなど、ちょっとしたデータを合わせて評価をしていただくと具体性が出てくるのではないのでしょうか。先生や保護者が毎年変わっていく中で、毎年捉え方が違ったということがなくなるのではないのでしょうか。この調査はやめた方がよいということではなく、これはこれで当然大事な評価なのでやっていただくとして、さらにプラス、学校の中で様々集められるようなデータも提示して、それを踏まえて合わせて評価をしていただくと、より具体的な評価になるのではないかと感じているところです。そこで、D 委員、保護者の立場で答えておられると思うのですが、例えば「大いにそう思う」と「そう思う」の違いというと、D 委員がアンケートに答えるときは、どのようにやっておられますか。

D 委員：迷わなかったら「大いにそう思う」を選びます。「ちょっと」と思ったら、多分「大いにそう思う」ではないのだろうなという感じです。

A 委員：子どもさんの年齢・学年の違いなどで、同じ項目でも評価が変わってきたりすると思うので、これだったらこうですと、評価の基準を決めるのはなかなか難しいだろう。よって、この調査は、印象評価としても大事なことになるので、保護者の方々がどういうふうに感じておられるかという調査はしっかりと実施した上で、さっきも言ったように、何か評価の基準として客観性のある数値など、学校で集められるデータのようなものがあれば、一緒に合わせて評価をしていただくと、客観性や具体性がより出てくるかなと思います。ぜひご検討をお願いいたします。

D 委員：中学生向けアンケートについて、息子は中学部ですが、なかなか自分の思いを伝えられないので、どれだけの割合の子が「自分で答えました」というのか。「先生に答えを伝え書いてもらいました」は、先生方の誘導などが入ったりするのか、どのくらいの割合の生徒が、自分で質問内容を理解しているのかを少し聞いてみたいなと思いました。

副校長：まだ集計しておりませんので、第3回の学校運営協議会の時にはっきり申し上げます。自分で読んで考え、マークを塗ることができる生徒は「自分で答えました」になります。例えば、手先の器用さなどの問題で、自分でマークするのが難しいとか、設問を教師が噛み砕いて説明したり、教師が読み上げて、「どれかな」と聞いて、指差して答えてもらったりなどのものについては、「先生に答えを伝え書いてもらいました」に選ぶよう調査前に各担任に指示しておりましたので、答えの誘導はありません。答えられない場合には、「答えを選ぶことができませんでした」を、教師がマークすることにしておりました。

D 委員：この調査の実施は、努力義務ですか。それとも必ず実施しなければならないものですか。

副校長：実施しなければならない調査です。

A 委員：少し話が変わりますが、障がいのある方は、昔はなかなか投票にも行けないという状況がありました。今は、知的障がいなど、障がいの重い方でも様々な形で投票できるようになるということで、例えば投票のための外出ができたりというようなことなどがあると思います。投票用紙に書けない方には、本人に意思を

確認して、それで別の人が代筆してというようなことを考えると、少し長い目で見れば、アンケートに答えるという活動は、主権者教育とまでは行かないかもしれませんが、子どもたちの将来に繋がってくるものがあると思います。G 委員は、福祉施設の立場で、何かコメントはございませんか。

G 委員：自分のことは自分で決定するという自己決定支援というのがある。自分のことは自分で決定できるようにすることが、支援の目標として非常に重要です。選挙の投票についても、「投票に行きたい」という意思表示があれば、それを支援します。もちろん代筆はできないので、第三者の方がそこは実際には携わるのですが、それでも移動は支援していかなければならないというところが本当に大事。それが社会参加に繋がっている。ひいては生活の質の向上ということにはなるのかなと思います。

A 委員：子どもたちの将来というものに繋がっているものなのだとすることで、ぜひ先生方も意識して取り組んでいただければなと思いました。

エ 令和7年度いじめに対する本校の取組について
資料のとおり

<質疑・応答>

A 委員：なかなかいじめの定義も難しい。私たちの子どもの頃とはもう今は全然違いますね。例えば、小学校や中学校の先生ならよくご存知だと思いますが、算数や数学の授業で、問題を一生懸命解いてる時に、時間がかかる子と、ぱっとできてしまう子がいて、ぱっとできた子が時間がかかっている子に向かって「なんだ、これはこうだよ」などと言って教えてしまうケースがあります。善意で教えたとしても、教えられた子が「あともうちょっとでできたのに、そんなこと言われて嫌だった」となれば、これも今は、いじめになりますね。今みたいな例は、いじめの定義の説明としてよく使われます。一緒に学習やその他の活動をしてる中で、本当は自分で、もうちょっと頑張ってやりたかったのに誰かにやられてしまったと。そしてそれがその子にとっては「ものすごく嫌なことだった」ということになると、それもやはり今はいじめになります。30年、40年前は、「支援学校や養護学校では、いじめなんかないよ」って言われていましたが、今はもう全然捉え方が変わってきています。とはいえ、やはり「嫌だ」と言えるというのがとても大事です。絶対あってはいけないことですが、この前少し話題になった、先生からの子どもに対する色々な性暴力事案があつて、「その時は嫌だと思って

たけれど、嫌だと言えなかった」というのがありました。とてもデリケートな問題であり、とても大事なことです。細やかな取り組みを進めていただけたらと思います。

(5) 各委員から

A 委員：この会が始まる前に校長先生にもお話ししましたが、この3年間、地域連携の活動が様々な形で広がってきてるっていうことは、先生方が取り組みに本当にご努力いただいたということで、とてもよいことだなと思っています。ただ、では次はどうするのかという問題になります。今までは、とりあえずまず色々な活動に取り組んでいく、広げていくという段階だったと思いますが、次はその活動で、実際に子どもたちにどんな力がついているのかとか、1つレベルの上がった取り組みが必要になってくるかなと思っております。ぜひその次のレベルに、盛岡ひがしさんには取り組んでいただいて、展開していただけたらと思っています。

B 委員：本日は様々な活動について、御丁寧に御説明をいただき、本当にありがとうございました。先日、「ひがしの日」に参加させていただきました。子どもたちが本当に生き生きと楽しそうにしている姿を見て、これまでの学びが見えたなということを感じました。このプロジェクトは2年間の準備期間を経て今年からスタートということで、子どもたちはとてもワクワク、ドキドキだったのではないかなと思います。先生方のご苦労があったと思いますが、先生方の姿から、子どもたちが影響を受け、力をつけてきたのだな、変容してきたのだなということを肌で感じました。今、A委員もおっしゃったのですが、このプロジェクトを行う前の子どもたちと、行った後の子どもたちの変容したところはどんなところだったのかなというところは後から検証して、さらにより良いプロジェクトになるように、努めていただけたらよいと思っています。

C 委員：プロジェクトの場面にも行きましたし、普段はホームページの方も、色々見せていただいております。子どもたち自身も、活動の内容について、施設に帰ってくると「(〇〇に) 行ってきたよ」とか、「大きくなったら、自分も(〇〇に) 行くんだな」という感じで話してくれます。しっかり生活と密着した取り組みをしてくださっていることを本当に嬉しく思っていました。その集大成ということで、「ひがしの日」という行事や、高等部の実習では、色々なところで実習する場面で、「あれが役に立ったな」とか、「覚えたことができたよ」とか、「ちょっと苦手だったけど、やっぱりやりたいから頑張る」みたいに、しっかり

連動してるところが、その後の進路選択というところに繋がり、本人たちの自信になっているのだなと思っています。これからもどうぞよろしくお願いします。

「いじめの定義」のところで、SOS の出し方というところを伺って本当にそのとおりだなと思いました。子どもの権利条約でも、知る権利（情報へのアクセスの権利）とか、聞かれる権利（意見表明の権利）というところがないと、本人たちの意思表示ができないということを、大事にしてくださってるところが、本人たちの意識化であったり、具体化というところに繋がっているのだなと思いました。生徒が体験したことを先生方が拾い上げてくださってること、生徒が先生方に意思を表明できるというのは、やはり安心して見てくださる先生方がいるから出せるというところがあるので、大変だと思いますが、これからもどうぞよろしくお願いします。

D 委員：岩手県の高等学校の PTA 広報誌『ポローニア』で、今年度は盛岡ひがし支援学校に寄稿の当番が当たるということで、私が原稿を書かせていただきました。そこで「花咲く丘プロジェクト」の中身にもなっているりんごをメインに書かせていただきました。ひがし支援とりんごは本当に近い存在だなということを改めて感じました。地域との連携でぱっと頭に出てくるのが、峰南高等支援学校の、NEXCO の花壇の整備です。この会が始まる前に自宅で調べたら、今、花巻清風支援学校でクラウドファンディングをやっていました。それが、地域で生きる、地域で働く人になるということで、クラウドファンディングの締切が 12 月 1 日までということで、現在やっている最中だそうですが、最初の目標が 65 万円のところ、現在 116 万円まで集まったということでした。盛岡ひがし支援学校に関しては、去年も少しお話したのですが、すごくよい取り組みをしているのですが、外部に向けてのアピールがちょっと弱いのではないかと思います。今日も色々お話を聞きましたが、やってることは間違いのないと思いました。すごくよいことをやっているの、地域にももう少し色々発信していけば、峰南＝NEXCO みたいな感じで、多くの人が目するものになっていくと思います。りんごを使って例えばジュースを作るなどすると、それが農福連携になっていくと思います。お店に作業製品を納品に行ったというのが、今度はりんごジュースになったりして、それがどんどん働く場にもなっていければよいなというような感じで思いました。

E 委員：様々なプロジェクトが素晴らしいなと思いました。以前は物を作って、それで満足して終わる。それが今度は売りに行く。売りに行って、今度は儲けてもらいたい。それで、儲けたお金で何かをやってほしい。そういう社会につながる活動をしてほしいです。これから子どもたちは大人になっていって、そして商

売人になる人もいるかもしれない。会社に勤める人もいるかもしれない。そういう中で非常によいプロジェクトだなと感心しております。次に、いじめの関係ですが、ふと思えば36年前、うちに中学校特殊学級を卒業して正社員として入社した男の子がいます。ある日、私のところに訪ねてきて、「殴られた」と訴えがありました。ところが、社員を呼んで聴き取りをしたところ「頑張れよ」と言って励ましたということでした。昔もそうだったんですが、今もうちの社員と障がい者の人たちが一緒に働いてます。その中で、長く居る社員のパターンというのは、それなりに付き合いがうまくやっていける人ですが、新しい社員が入ってくると慣れるまでは正直いまいち付き合いがうまくいかなく人が多いかなという感じです。そうすると、こういう「いじめ対応」が非常に参考になります。うちの会社としては、これを会社バージョンにして、「いじめ」という言葉ではなくて、「一緒に頑張って働こう」という言葉に変えてやっていきたい。今日は勉強になりました。

F 委員：「花咲く丘プロジェクト」は、りんごをメインに打ち出していただけてますね。実は私もりんご農家です。新山地区にはりんご農家が3軒あります。今年も何度か（盛岡ひがし支援学校の児童生徒が）見学に来られました。先ほどの報告を聞くと、摘果とか収穫とか、そういった色々な学習でふじむら農園というのが出てきましたが、ふじむら農園さんは田の沢地区です。もっと学校に近い場所にもりんご農家があるので、声を掛けていただければと思います。子どもたちは、例えばメロンを例に出すと、土の上に実がなっているのか、蔓になっているのか、そういったものもよくわからないようです。りんごはどういうふうになって、年間を通じてどのような作業があるのか、色々なパターンの学習が出来るかと思います。作業で畑に入っておりますので、特に事前の見学連絡などもいらないのですが、見学など必要な時に軽く言っていただければと思います。他には、活動計画の中で、神社の話題があったのですが、鳥居が過去には2本あったのですが、1本倒れ、さらにその後にもう1本も倒れ、今立っているのは木製ではなくプラスチック製みたいなものです。その鳥居や社に張るしめ縄は自治会で作っています。12月7日に新しいしめ縄、4メートル～5メートルぐらいの長さになるものを2本作って新たに奉納します。時間が合えば作りたてのしめ縄を見られると思います。ぜひ見に来てください。

G 委員：多く方々が「ひがしの日」に来校いただいたということで、だんだん地域の理解が深まっているのかなということを思いました。ただ、課題にもあったように、児童生徒数が多くて、これは本当に学校を越えて連携するということを、今後本当に必要になると思いますし、今後、特別支援教育を発展させていくため

には相当工夫が必要なのだろうなと思っております。それだけニーズがあるという部分もあるし、期待感も高いのではないかなというふうに思います。(盛岡ひがし支援学校は) 卒業生をまだ多く出してるわけではないので、社会との結び付きなどという部分においては、今後どんどん深まっていくのではないかなと思っております。施設の方も、卒業生の受け入れはもちろん、「社会と繋がり、学校と繋がる」というような活動・連携を深めてやっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

I 委員：色々と本当にありがとうございました。今年も「ひがしの日」はじめ、各学部の様子なども「地域」ということを意識した活動をしていることについて、幾らかでもお伝えできたのかなと思います。変わる部分と変わらない部分、それぞれバランスを取りながらというのは非常に難しいですが、今いただいた御意見を十分参考にさせていただき、大事にしながらまた新しい活動に結びつけていきます。また、これまでの取組をもう少しブラッシュアップして、質を高めたものにしていきたいなと思います。最後になりますが、昨年度申し上げましたけれども、本校の教育活動を知ってもらうこと、それから気に留めてもらう、その上で見守ってもらうという基本的な部分を大切にしながら、学習を発展させていくことが大事であると思っておりますし、連携をきっかけとして、子どもたちの将来の社会参加や社会自立にどう繋げていくかということ、先ほどもお話がありましたけれども、そういった部分を考えながら教育活動に取り組んでいくということが重要だと感じております。今後も学校から発信していく姿勢を忘れず、しっかり取り組んでいきたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(8) 閉会のことば